



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月3日

上場取引所 東

上場会社名 富士急行株式会社

コード番号 9010 URL <http://www.fuikyu.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀内 光一郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役IR推進室長兼経営管理部長 (氏名) 和田 一成

TEL 0555-22-7120

四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	8,711	△16.5	△394	—	△621	—	△353	—
23年3月期第1四半期	10,435	2.7	347	10.3	97	26.9	△40	—

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 △430百万円 (—%) 23年3月期第1四半期 △170百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	△3.34	—
23年3月期第1四半期	△0.38	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	88,423	15,122	16.5
23年3月期	86,969	16,086	17.9

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 14,569百万円 23年3月期 15,543百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	—	—	5.00	5.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	45,460	2.0	2,820	7.8	1,650	4.8	720	8.3	6.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※第2四半期累計期間の業績予想につきましては、現時点で合理的に算定することは困難であるため、記載しておりません。今後、予想可能となり次第速やかに公表いたします。

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	109,769,477 株	23年3月期	109,769,477 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	3,739,255 株	23年3月期	3,738,925 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	106,030,382 株	23年3月期1Q	106,171,772 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、本年3月に発生した東日本大震災に伴う被害や計画停電等により深刻な影響を受け、個人消費が低迷するなど先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは、運輸、不動産、レジャー・サービス、その他の各事業にわたり、積極的な営業活動と経営の効率化に努めてまいりました。当第1四半期は、後半において個人消費の一部に回復の兆しが見られたものの震災直後からの大幅な市場環境の悪化を受け、営業収益は87億11百万円(前年同期比16.5%減)となり、営業損益は3億94百万円の損失、四半期純損益は3億53百万円の損失となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(運輸業)

鉄道事業では、東日本大震災後、計画停電による運行への影響が懸念されておりましたが、4月以降の計画停電の見送りに伴いJRとの直通運転を再開させるなど、利便性の確保に努めました。また、4月には富士急行線下吉田駅に鉄道を身近に親しむことができる貴重な寝台客車等を展示した「下吉田駅ブルートレインテラス」及び地域の情報発信や街歩きの拠点となるコミュニティスペースとしての機能を有する「下吉田倶楽部」をオープンし、鉄道の利用促進と地域の活性化に取り組みました。

乗合バス事業では、引き続き不採算路線の改善を行うとともに、富士宮市においては新たにコミュニティバスを獲得し運行を開始しました。

高速バス事業では、「大宮～河口湖線」でゴールデンウィークにあわせて池袋駅への乗入れを開始し新規顧客の掘り起こしに努めるとともに、「新宿～富士五湖線」では高速バス往復乗車券と富士五湖周遊バス等をセットにした「富士五湖エンジョイ!きっぷ」を販売し利便性の向上と活性化に努めました。

貸切バス事業では、4月30日より山中湖エリアにおいてバスと船舶の機能を備えた陸上でも水上でも走行が可能な水陸両用バス「YAMANAKAKO NO KABA」の運行を開始し、新たな需要の掘り起こしに努めました。

ハイヤー・タクシーなどの各事業を含めた運輸業全体では、市場環境の急激な悪化に対し、主に貸切バスを中心として事業規模、営業体制の見直しに取り組んでおりますが、営業収益は32億73百万円(前年同期比22.1%減)となり、営業損益は2億3百万円の損失となりました。

(不動産業)

不動産販売事業では、引き続き山中湖畔別荘地において、高付加価値商品の「コンセプト・ヴィラ」シリーズの他、新たな商品として「煉瓦の森山中湖」を加えるとともに、訴求効果の高いWEBサイトをリニューアルし積極的な販売に努めました。

不動産賃貸事業では土地の有効活用やテナントリーシング等を進め、また、不動産別荘地管理事業ではメンテナンス工事の受注拡大を図り、安定的な収益の確保に努めました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は6億22百万円(前年同期比5.7%減)、営業利益は1億71百万円(同8.0%減)となりました。

(レジャー・サービス業)

遊園地事業では、富士急ハイランドにおいて「青山テルマ チャリティプロジェクト in 富士急ハイランド」等の東日本大震災チャリティイベントを開催しました。

富士南麓の遊園地Grinpaでは、昨年7月にオープンした「ピカソのタマゴ」が好評を博し前年を上回るお客様にご来場いただきました。

さがみ湖リゾートプレジャーフォレストでは、4月に首都圏最大級のデイキャンプ場となる「ワイルドクッキングガーデン」をオープンし集客に努めました。

富士本栖湖リゾートでは、4年目を迎えた「富士芝桜まつり」を4月後半～5月後半まで開催しましたが、天候による開花の遅れなどもあり来場者数は前年を大幅に下回る結果(27万人)となりました。

株式会社ピカでは、4月に静岡県において指定管理者制度による『小山町道の駅「すばしり」観光交流センター』の営業を開始し、多くのお客様にご利用いただきました。

ゴルフ場事業等を含めたレジャー・サービス業全体では、利用者減など厳しい状況が続く中、集客アップに向けた施策を実施するとともに、オペレーションの効率化等によるコスト削減に努めましたが、営業収益は39億98百万円(前年同期比17.3%減)となり、営業損益は3億91百万円の損失となりました。

(その他の事業)

製造販売業では、富士ミネラルウォーターの販売が好調に推移し、建設業においては大規模工事が完工したこと等により収益が向上しました。

以上の結果、その他の事業全体の営業収益は16億74百万円（前年同期比20.6%増）となり、営業利益は44百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて14億54百万円増加し、884億23百万円となりました。

また、負債は、借入金の増加などにより前連結会計年度末に比べて24億18百万円増加し、733億円となりました。なお、借入金は、長短合計で20億51百万円増加しております。

純資産合計は、利益剰余金の減少などにより、前連結会計年度末に比べて9億64百万円減少し、151億22百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間の業績は概ね予想通り推移しており、前回発表時（平成23年5月11日）の連結業績予想を変更していません。

なお、第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、東日本大震災による消費動向や経済活動への影響及びこれらが当社第2四半期連結会計期間の業績に与える影響を見定めている最中であり、現段階では合理的な算定が困難であるため、記載していません。今後、予測可能となり次第速やかに公表いたします。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,884,366	10,627,373
受取手形及び売掛金	1,964,662	1,682,715
分譲土地建物	8,657,980	8,657,980
商品及び製品	688,331	725,588
仕掛品	11,423	25,598
原材料及び貯蔵品	573,341	586,360
未成工事支出金	91,137	150,130
繰延税金資産	470,783	749,832
その他	858,465	838,266
貸倒引当金	△12,257	△8,138
流動資産合計	22,188,234	24,035,708
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	26,831,624	26,693,502
機械装置及び運搬具(純額)	6,652,344	6,354,272
土地	16,666,284	16,664,746
リース資産(純額)	1,644,368	1,631,297
建設仮勘定	2,457,096	2,714,313
その他(純額)	1,405,754	1,332,238
有形固定資産合計	55,657,472	55,390,370
無形固定資産	3,088,124	3,073,057
投資その他の資産		
投資有価証券	4,172,530	4,008,169
繰延税金資産	871,997	947,590
その他	1,014,881	993,171
貸倒引当金	△24,209	△24,717
投資その他の資産合計	6,035,200	5,924,213
固定資産合計	64,780,798	64,387,641
資産合計	86,969,032	88,423,350

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,752,921	1,840,173
短期借入金	16,444,630	16,449,926
リース債務	371,731	385,584
未払法人税等	245,463	56,042
賞与引当金	415,094	116,658
役員賞与引当金	9,000	—
その他	4,829,248	5,729,163
流動負債合計	24,068,090	24,577,548
固定負債		
長期借入金	39,673,756	41,719,851
リース債務	1,368,917	1,340,856
退職給付引当金	1,092,048	1,074,652
その他	4,679,221	4,587,782
固定負債合計	46,813,942	48,723,142
負債合計	70,882,033	73,300,690
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,126,343	9,126,343
資本剰余金	3,417,109	3,417,109
利益剰余金	4,647,310	3,764,620
自己株式	△1,566,586	△1,566,723
株主資本合計	15,624,177	14,741,350
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△80,244	△171,850
その他の包括利益累計額合計	△80,244	△171,850
少数株主持分	543,066	553,159
純資産合計	16,086,999	15,122,659
負債純資産合計	86,969,032	88,423,350

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
営業収益	10,435,681	8,711,840
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	9,833,535	8,851,458
販売費及び一般管理費	254,879	254,966
営業費合計	10,088,415	9,106,424
営業利益又は営業損失(△)	347,266	△394,584
営業外収益		
受取利息及び配当金	18,951	19,396
雑収入	59,515	52,478
営業外収益合計	78,466	71,874
営業外費用		
支払利息	286,460	280,521
雑支出	41,356	18,440
営業外費用合計	327,817	298,961
経常利益又は経常損失(△)	97,915	△621,671
特別利益		
固定資産売却益	2,740	62,683
補助金	—	19,591
貸倒引当金戻入額	3,215	—
特別利益合計	5,956	82,274
特別損失		
固定資産売却損	2,384	712
投資有価証券評価損	—	9,447
固定資産圧縮損	—	19,591
固定資産除却損	17,931	13,111
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	92,300	—
特別損失合計	112,615	42,861
税金等調整前四半期純損失(△)	△8,744	△582,258
法人税、住民税及び事業税	35,974	52,080
法人税等調整額	△3,804	△296,255
法人税等合計	32,170	△244,175
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△40,914	△338,083
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△54	15,870
四半期純損失(△)	△40,859	△353,954

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△40,914	△338,083
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△124,197	△91,483
持分法適用会社に対する持分相当額	△5,751	△565
その他の包括利益合計	△129,949	△92,048
四半期包括利益	△170,863	△430,132
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△169,851	△445,560
少数株主に係る四半期包括利益	△1,012	15,428

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に対する 営業収益	4,181,233	535,720	4,734,354	9,451,307	984,374	10,435,681	—	10,435,681
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	19,559	124,739	100,096	244,395	404,536	648,931	△648,931	—
計	4,200,792	660,459	4,834,450	9,695,702	1,388,910	11,084,613	△648,931	10,435,681
セグメント利益又は 損失(△)	216,977	186,436	△6,807	396,606	△35,030	361,575	△14,309	347,266

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△14,309千円には、セグメント間取引消去△15,644千円等が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計				
営業収益								
外部顧客に対する 営業収益	3,258,841	497,843	3,916,879	7,673,564	1,038,275	8,711,840	—	8,711,840
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	14,300	124,719	81,712	220,732	636,490	857,223	△857,223	—
計	3,273,142	622,562	3,998,592	7,894,297	1,674,766	9,569,063	△857,223	8,711,840
セグメント利益又は 損失(△)	△203,885	171,451	△391,561	△423,995	44,127	△379,868	△14,715	△394,584

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、百貨店業、建設業、製造販売業、情報処理サービス業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△14,715千円には、セグメント間取引消去△15,856千円等が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。